

令和5年度全国学力・学習状況調査より

今年度の「全国学力・学習状況調査の調査結果」（今年度は国語、算数と児童質問紙を実施）から分析した、本校児童（6年生）の学力・学習状況についてお知らせします。

I、国語・算数の教科の成果について

国語…平均正答率が全国・大阪府平均より2%以上、上回りました。特に文章中の語句の意味や使われ方に対する理解に高い傾向がみられました。国語の専科指導に取り組んで4年目の成果が出ていると思われます。また、1～6年において朝の学習や昼学習のチャレンジタイムで、ドリルパークに取り組んでいることも基礎学力を高める助けになっています。

算数…国語以上に、正答率が全国平均・大阪府平均を2%上回りました。朝学習の計算タイムや昼のチャレンジタイムでの復習や、ドリルパークでの取り組みによって、基礎基本が身につく、定着してきています。

II、国語・算数の教科の課題について

国語…漢字や敬語の活用問題で間違った漢字や文章を書き換える問題をよく間違っていました。それから、図や表、グラフを用いて、自分の考えを原稿用紙に文章を書くことがやや苦手な傾向があります。

また、2つの文章を○字以上○字以内で書きましようなどの字数制限があるものや、○○さんの考えを引用して書きましようなど、いくつかの条件のもとに書く力が弱いです。文章を書くこと自体の力はついているので、特定の語句を入れた文章を書くことや、原稿用紙のマス目を書くことに慣れさせる機会が必要だと感じました。

算数…2つの伴って変わる数が比例の関係であることがわかり、比例の性質を活用して式や答えを記述する問題や三角形の面積の大小を式や言葉で説明する問題に課題がありました。総じて、各問題の意図をしっかりと見極め、問題の関連性を理解できるためには、日頃の復習や文章問題への読解力や解答への論理的思考を養う必要があります。

III、児童の質問紙について

基本的な生活習慣は定着しています。郷土愛や自尊心も高く、人の役に立つ人間になりたい（100%）と将来への目標を持っている児童も多いです。また、読書に親しむ児童が多い反面、新聞を読む児童が14%と低い結果となりました。今後、時事問題にも興味がわくよう声かけをしていきたいと思います。

タブレットや教室のモニターが導入され、タブレットなどが学習に役立つという質問には、90%を超える児童が役立つと回答していました。授業や行事での活用により、ICTの活用スキルが高まっていると感じられます。家庭でのタブレット学習では、30～120分までの使用時間が多く、家庭学習にも活かされています。今後も健康に配慮しながら活用していきたいと思います。

日頃の授業についてです。国語や算数、英語の授業に関しては、好きと答える児童が多かったですが、嫌いという子も一定数いましたが、国語や算数、英語が大切であると感じる児童は、90%を超えていました。

今回の全国学力状況調査でもほとんどの子が、時間が足りないといった意見がありましたが、最後まであきらめずに問題を解くことができたかという質問には、85%の児童が取り組めたと回答しています。

駒小の児童は、教科によって、好き嫌いもありますが、苦手なことでも粘り強くやり通す姿勢が見られます。

まとめとして、大阪府や全国の児童の回答と比べてみると、6年生児童は毎日の朝食摂取や睡眠時間の確保ができており、基本的な生活習慣が身につけていると考えられます。また、学校のきまりを守ろうとする規範意識や学級みんなで協力するという集団意識も高いものがあり、良好な社会性がうかがえます。

これもひとえに保護者の皆様や地域の皆様が温かな気持ちで子どもたちの「育ち」を見守って頂いているお陰です。ありがとうございます。子ども達の健全な成長には、学校教育活動だけでなく家庭や地域の皆様のご家庭でのサポートも不可欠だと考えます。今後とも保護者や地域の皆様の変わらぬご支援ご協力の程よろしく願いいたします。